

第2週 水曜日 早課 カノン

第1のカノン1調イオシフ作、第2のカノン3調フェオドル作

第3歌頌

イルモス、「第二の天を水の上に固め」

我が心は主の中に堅められ、我が角は我が神に在りて高くなり、我が口は我が敵の上に開けたり、蓋我は爾の救の為に楽しむ。主の如く聖なる者あらず、蓋爾の外に他の者なし、我が神の如く堅固なる者あらず。復驕れる言を言ふ勿れ、狂妄をして爾の口より出でしむる勿れ、蓋主は睿智の神にして、行為は彼に権られたり。

十四段に、

強き者の弓は弱み、弱れる者は力を帯びたり。飽きたる者は糧の為に労働し、飢えたる者は息ふ。胎荒れたる者は七子を生子、多くの子ある者は衰ふ。主は殺し亦生かす、地獄に下し亦上す。主は貧しくし亦富ますも卑くし亦高くす。主は貧しき者を塵埃より起し、乏しき者を草芥より挙げて、之を牧伯と共に坐せしめ、光榮の位を嗣がしむ。彼は其聖者の足を守る、不法の者は幽暗の中に消ゆ。

至善なる神の言よ、爾は大仁慈に由りて十字架に手を舒べて、昔智識の樹に舒べたアダムの手の罪を除き給へり。

蓋人の力を持って堅固なるに非ず、主は之に敵する者を砕かん、主は聖なり。

苦しみを受けて、信者に苦しみなきを賜ひし主よ、蛇の猜みに由りて動かさる我が思を堅めて、爾の苦しみを以て諸欲の攻撃を防ぎ給へ。

智者は其の智を以て誇る勿れ、強き者は其の力を以て誇る勿れ、富む者は其の富を以て誇る勿れ。

斎の恩寵は輝きて、不摂生の暗を払ふ。今は嘉く納るべき時及び救の非なり、我等痛悔の結果を顕さん、然ば活きん。

誇らんと欲する者は主を悟りて彼を知り、且つ地の中に審判と義とを行ふを以て誇るべし。

[生神女讃詞] 墮落する者の更新なる潔き童貞女よ、我逸楽に耽りて、甚だしき罪の淵に陥りし者を起こして、生命に向かわしめ給へ。

イルモス、「主よ、我が心を堅めて」

主は天に升りて轟けり、彼は義にして地の極を審判せん。

主よ、爾の十字架を以て我が心を堅め給へ、我等が邪なる言と汚らはしき行とに傾きて爾より離るることなからん為なり。

彼は力を以て其の王に賜ひ、其の膏つけられし者の角を高くせん。

主宰よ、天と地とは爾の苦しみに感ぜられて、顕に変じて、爾が実に萬有の王たるを示せり。

光榮は父と子と聖神に帰す。

[聖三者讃詞] 同尊にして無原なる至聖三者、生を施す、光の原因たる惟一者、父、子、聖神よ、我を救ひ給へ。

今も何時も世々に、「アミン」

[生神女讃詞] 夫に與らざる神の母よ、爾は獨神を生み、生む前の如く生みて後にも童貞を損なはざうして、貞潔の者と止まり給へり。

我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

イイスよ、我等は爾の紫の袍、釘と十字架、海絨と^{ほこ}戈に伏拝して、爾萬衆を生かし給ひし主を讃め歌ふ。

(詠) イルモス3調 「主よ、我が靈を堅めて、爾を歌頌せんことを教へ給へ、我等が爾救世主を世世に讃栄せん為なり。」

第3歌頌



主よ、我が^{たましい}靈をかためて 爾を歌頌することを
 教えたまえ 我等なんじ 救世主を、
 世世に 讃栄せんためなり。 **小連続**

小連続

第8歌頌

イルモス、「爐の中に歌頌せし少者を救ひて」

主の悉くの造物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 主の諸天使と主の諸天は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 諸天の上に在る水と、主の萬軍は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 日と月と、天の星は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 雨と露と、諸の風は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。

十四段に、

火と熱、寒と暑は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世世に讃め揚げよ。 露と霜、氷と嚴寒は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 霰と雪、夜と晝は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 光と暗、電と雲は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 山と邱、地と地上の植物は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。 諸の泉と、海と河、鯨と凡そ水に泳ぐ者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ。

天の^{もろもろ}諸の位鳥、野獸と一切の家畜と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、大仁慈に由りて罪犯者と偕に算へらるるを甘ぜし主よ、我が^ほ諸罪を抹し給へ、我が^{ほ あ}信を以て萬世に爾を讃栄せん為なり。

人の^ほ諸子は主を崇め讃めよ、イスライリ民は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、

主よ、爾の^{ほこ}戈を以て我が^{ほこ}諸罪の書券を裂きて、悪鬼の毒矢に傷つけられし我が^{ほこ}心の病を^{いや}醫し給へ。

主の司祭等、主の諸僕は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、我がハリストスよ、罪に味まされたる我が子頃を爾の脅より流れし血にて洗ひ給へ、我が萬世爾を讃栄せん為なり。

諸神^{たましい}と諸聖人の^{けんび}靈と、諸義人と心の謙卑なる者と主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に^{ほ あ}讃め揚げよ、

[生神女讃詞] 耕作せられずして、神聖なる力を持って萬有を養ふ天の穂を生ぜし童貞女

よ、我が飢うる卑微なる霊を飽かせ給へ。

又、イルモス、「神たる力を以て燄の中に」

アナニヤ、アザリヤ、ミサイルは主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、十字架よ、慶べ、爾に由りて一瞬にして盜賊は神学士と顛れて呼べり、主よ爾の國に於いて我を憶ひ給へと。我等をも彼の分に與る者と為せ。

主の諸使徒、預言者、致命者は主を崇め讃めよ、彼を歌ひて世々に讃め揚げよ、ハリストスよ、爾は刺されて焰の劍を除きて、人々の為に復樂園を開き給ふ。我等は其の中に入りて、常に爾の節の生命を楽しむ。

我等主なる父と子と聖神^ほとを崇め讃めん。

〔聖三者讃詞〕我等は父と偕に子及び聖神に、唯一の神性に於いて伏拝して、塵の口を以て黙さずして呼ぶ、至高きに光榮は三位一体の神に歸す。

今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讃詞〕獨神の恩寵を蒙れる者よ、爾は童貞女にして子を生む、大なる秘密、畏るべき奇跡なり、蓋爾は身を取りし神、世界の救主を生み給へり。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

ハリストスの十字架、四極^{たのみ}の恃頼よ、爾の導きにて我等に穩に善き齋の海を渡るを得しめて、諸罪の暴風より援けよ。

我等主を讃め、崇め、伏し拝みて世々に歌ひ讃めん、

(詠) イルモス 3調 「神たる力を以て燄の中にエウレイの少者に下りて現しし主を、司祭等よ、崇めて萬世に讃め揚げよ。」

第8歌頌

我等神を讃め崇め 伏し拝みて 世世にう たーい 讃 めん。

かみたる ちからを 以って ほのおの うちーに

エウレイの少者に降りて 顛れし 主よ、司祭等よ あがめて、

萬世に 讃 めー あげよ。

第8歌頌のイルモスの後

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

第1句 我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

〔附唱〕 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操^{みきお}を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句

 我が心は主を あがめ 我が霊は神我が救主を 喜こぶ

附唱

 ヘルビムより尊とく セラフィムに並びなくさかえ 貞操を


 破らずして神言を 生みし 実の生神女たる 爾をあげ讃む

第2句 その婢の卑しきを願み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→附唱ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、其の名は聖なり、其の憐れみは世々 彼を畏るる者に臨まん →附唱ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、→附唱ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。 →附唱ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、アウラアムと其の裔を世々に憐れむ事を記憶し給へり、 →附唱ヘルビムより尊く

第9歌頌

イルモス、「生命を容れし常に流るる泉」

祝讀せらるる我主、イズライリの神、蓋其民を眷みて之に購を為し、我等の為に救の角を其僕ダワイドの家に興せり、古世より其聖なる預言者の口を以て言ひしが如し、即我等を我が諸敵及び凡そ我等を悪む者の手より救ひ、以て矜恤を我が先祖に施し、

八段に、

其聖なる約、即我が祖アウラアムに矢ひたる誓を記念せん、

エリセイは齋して死せし童子を復活せしめたり、録されしが如し。我等信者も齋して、務めて肉の念を殺さん、彼處に於いて生命を受けんが為なり。

謂ふ、我等に我が諸敵の手より救はれし後、懼なく、彼の前に在りて、聖を以て、義を以て、生涯彼に事へしめんと。

悲しい哉我が霊よ、審判は畏るべく、審判者の擬定は戦くべし。務めて痛悔して爾の為に十字架に懸けられて、信者を定罪より救ひ給ひしハリストスと和睦せよ。

子よ、爾も至上者の預言者と称へられん、蓋主の面前に行きて其の道を備へん、十字架に在りて盜賊の為に樂園の欣ばしき入門を示ししハリストスよ、我の為に痛悔の門を啓きて、我が諸愆の入門を閉ぢ給へ、我が爾の仁慈を讃榮せん為なり。

彼の民に、其救は即 諸罪の赦にして、我が神の矜恤に因ることを知らしめん。

〔生神女讃詞〕我は飽くの深處に墮されし者として、罪惡の念にアラされ、悪鬼に従ひて、逸樂の奴隸と為れり、潔き童貞女母よ、我を助けて、救の満ちに向かはしめ給へ。

又、イルモス、「モイセイはシナイ山に於て」

此の矜恤に因りて、東旭は上より我等に臨めり、

主よ、爾は仁慈に由りて甘んじて己を付して、殺害者に携へられ、審判座の前に立ち

て、爾が造りし手にて批たれ、十字架に釘せられ、嘲られ、^{ほこ} 戈にて刺され、身を以て悉くの苦しみを忍び給へり、我等を救はん為なり。

^{くらやみ}

幽暗と死の蔭とに坐する者を照し、我等の足を平安の道に向はしめん為なり。

主よ、爾が十字架に在るを見て、天使の會はおののき、光躰は光を隠し、地は震ひ、萬有は爾に於ける凶暴に由りて動けり。神よ、爾は己の神聖なる苦しみを以て我等の救を成し給へり。

光榮は父と子と聖神[°]に帰す

〔聖三者讃詞〕至りて神聖なる三者、性に於いて唯一にして分離せざる者は、位に於いて分かれて、一なる者は三と為り給へり、これ父と子と生活の神[°]、萬有を護り給ふ神なり。

今も何時も世々に、「アミン」

〔生神女讃詞〕子を産む童貞女、又夫に與らざる母の事を誰か聞きたる、マリヤよ、爾は奇跡を行ひ給ふ、然れどもこれ如何に我に言へ。我が産の深きを窮むる勿勿れ、^{おうみつ} 是の奥満は実に人の智慧に超ゆ。

我等の神よ、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

主よ、我等皆爾の傷にて諸罪の苦しみにより醫されたり、蓋爾は十字架に挙げられて悪^{かしら}の魁たる敵に傷つけ給へり。祈る我等に定罪なく齋の時を終へて、復活に至るを得しめ給へ。

(詠) イルモス 3調 「モイセイはシナ山に於て棘の中に爾を焚かれずして神性の火を胎内に^{はら}孕みし者として観、ダニイルは爾を^き截られざる山として観、イサイヤは^{きざ}芽を萌しし杖、ダヴィドの根より出でし者なりと呼べり。」

第9歌頌

モイセイはシナイ山において、^{いぼら} 棘のうちに

神聖の火を胎内に はらみしものとして ダニイルは

爾を切られざる やまと見て イサイヤは 芽を

きざししつえ、ダヴィドの根より出でし者

なりと 呼ーーーべーーり **常に福へ**